

『魚をまもる』 川渕洋太郎

ぼくは、魚が好き。まず見た目がかっこいい。イワシはあんなに弱いのに、はりにかかったら、がんばっていこうとするのもかっこいい。六才から自分でつって、さばいて、食べている。たまにつれないとくじけるけど、魚だつていのちがけだからゆるしてる。魚にはいつもワクワクとふ思ぎと、ほかのものにはない何かがある。ぼくは今、魚だらけの生活をしていて、魚があればめっちゃまん足。だから、ぼくはおんがえしに学校で魚のことを広めている。もっと魚のことを知ってほしい。きゅう食で魚が出たらその魚のクイズを出している。アジのぜいごは何が進化したものでしょうか、とか。そのけっか、みんな魚にきょうみをもつようになり、たいどがかわった。魚が出るともり上がるし、魚をのこす子は二、三人になった。大体の子はかんぺき。これからもみんなに魚大好きになつてもらおう。色色な取り組みをして、魚をまもりたい。